

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-8267

(P2004-8267A)

(43) 公開日 平成16年1月15日(2004.1.15)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

A 4 7 L 13/51

A 4 7 L 13/52

F I

A 4 7 L 13/51

A 4 7 L 13/52 1 O 2

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2002-162106 (P2002-162106)  
 (22) 出願日 平成14年6月3日 (2002.6.3)

(71) 出願人 591203831  
 株式会社マーナ  
 東京都墨田区東駒形 1 丁目 3 番 1 5 号  
 (74) 代理人 100079072  
 弁理士 荒井 俊之  
 (72) 発明者 名児耶 美樹  
 東京都墨田区東駒形 1 丁目 3 番 1 5 号 株  
 式会社マーナ内

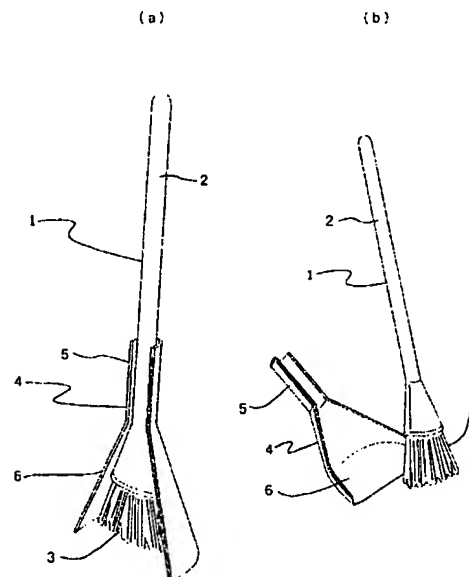
(54) 【発明の名称】 箒用スタンド

## (57) 【要約】

【課題】 箒を直立させて保持でき、且つ塵取りとして確実に塵を受入れることができ、しかも開口部の小さいゴミ箱にも確実に移し捨てることができるようにすることにある。

【解決手段】 柄体 2 の先端にブラシ 3 を連設した箒 1 を直立姿勢で保持する箒用スタンド 4 であって、弾性変形が自在な軟質樹脂で成形され、前記した柄体 2 の先端部が挿通される略半筒形状の把持部 5 の先端に、前記したブラシ 3 が収納される略半錐筒体形状のスカート部 6 を、一体連設した構成で、把持部 5 を持った状態でスカート部 6 を床に押し付けて先端が直線状になるように変形させ、塵取り操作を行う。

【選択図】 図 1



## 【特許請求の範囲】

## 【請求項 1】

柄体（２）の先端にブラシ（３）を連設した箒（１）を直立姿勢で保持する箒用スタンド（４）であって、弾性変形が自在な軟質樹脂で成形され、前記柄体（２）の先端部が挿通される略半筒形状の把持部（５）の先端に、前記ブラシ（３）が収納される略半錐筒体形状のスカート部（６）を、一体連設したことを特徴とする箒用スタンド。

## 【発明の詳細な説明】

## 【０００１】

## 【発明の属する技術分野】

本発明は、箒を直立姿勢で保持でき、且つ塵取りを兼用させた箒用スタンドに関するもの 10  
である。

## 【０００２】

## 【従来の技術】

清掃用具としての箒と塵取りは、その用途よりして常に同時に取り扱われるべきものであるが、掃除を開始しようとする際に一方が見当らないといったことはしばしば経験するところである。

## 【０００３】

## 【発明が解決しようとする課題】

そこで、この箒と塵取りとを一緒にして壁から吊り下げたり壁に立て掛けたりしていたが、玄関に置くような場合は甚だ体裁の悪いものであった。 20

## 【０００４】

また塵取りは、箒でかき寄せられた塵を受け入れるものであるから、塵が確実に入るように、即ち塵が塵取りの下に入り込んでしまうことのないように、先端が直線になっている。しかしながらこの構造であると、塵を取ったあとに開口部の小さいゴミ箱に塵を移す際に両側からこぼれてしまっていて入れにくく、それを防ぐために塵取りを一方端に傾けていたのであるが、それでも尚、外にこぼれ易い不満があった。

## 【０００５】

よって本発明は、この従来の不満点を解消し要求に応えるべく発明された箒用スタンドであって、箒を直立させて保持でき、且つ塵取りとして確実に塵を受入れることができても開口部の小さいゴミ箱にも確実に移し捨てることができるようにすることを目的とする。 30

## 【０００６】

## 【課題を解決するための手段】

上述した従来の課題を解決する本発明は、柄体の先端にブラシを連設した箒を直立姿勢で保持する箒用スタンドであって、弾性変形が自在な軟質樹脂で成形され、前記した柄体の先端部が挿通される略半筒形状の把持部の先端に、前記したブラシが収納される略半錐筒体形状のスカート部を、一体連設したことを特徴とする構成である。

## 【０００７】

## 【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を説明すると、先ず箒１は通常一般のものであって、直線棒状の柄体２の先端にブラシ３を連設した構成であり、このブラシ３は、合成樹脂製の線材をはじめ、従来より用いられる竹の枝、箒草、シュロ等を束ねたもので、如何なるものであっても良い。 40

## 【０００８】

次に本発明にかかる箒用スタンド４は、弾性変形が自在な軟質合成樹脂・ゴム等で成形され、前記した柄体２の先端部が挿通される略半筒形状の把持部５の先端に、前記したブラシ３が収納される略半錐筒体形状のスカート部６を一体連設した構成である。

## 【０００９】

図示実施例で把持部５は柄体２の円柱に対応した半円筒形状であり、スカート部６は、下方に向かって放射状に拡がったブラシ３の形状に対応した半円錐筒形状である。 50

## 【0010】

従って箒用スタンド4は、スカート部6を下端にした状態では半円錐筒形状であるために自立させることができ、そこで柄体2の先端部を把持部5に挿通すると共に、ブラシ3をスカート部6に収納した姿勢では、箒1を直立させた状態で保持することができる（図1（a）参照）。

## 【0011】

図1（a）はブラシ3が露出して視認できる状態を示しているが、図4の如く軸反転させておけば露出せず、玄関に置いていても不体裁ではなく、むしろ装飾品として面白味のあるものにすらなる。

## 【0012】

また、箒1と箒用スタンド4とは常に一体の組み合わせであるから、何れかが紛失してしまうといったこともない。

10

## 【0013】

さて、図1（b）、図2、図3は箒用スタンド4を塵取りとして使用する場合を示し、図1（b）、図2はゴミを掃き寄せ、塵をかき集める状態を示すものであるが、箒用スタンド4は軟質合成樹脂・ゴム等で成形されているので弾性変形が自在であり、従って把持部5を保持してスカート部6の先端を床面等に押し付けると、半円錐筒形の下端半円周端がほぼ直線状に変形する。

## 【0014】

それ故スカート部6はそのまま略三角形のゴミ受け部に変形し、かき集められたゴミ・塵を収納することができる。

20

## 【0015】

この作業を終了させて床から離すとスカート部6は弾性復帰し、先端が半円状の半円錐筒形状に戻るのややすぼまる形状になり、収納したゴミ・塵がこぼれにくくなるばかりでなく、図3の如くゴミ箱に移し代える際も方向性が安定し、ゴミ箱の外にこぼしてしまうこともない。

## 【0016】

## 【発明の効果】

以上説明したように本発明の箒用スタンドによれば、箒と塵取りとを一体にして保管することができ、しかも箒を直立状態で保持できてデザインのにも面白いものになり、更に弾性変形が自在なので塵取りとしてゴミ等が収集し易いだけでなく、ゴミ箱への移し代えも確実に行うことができる等、多くの優れた作用効果を奏する。

30

## 【図面の簡単な説明】

【図1】箒を立てた状態（a）と、塵取りとして使用している場合（b）を示す斜視図である。

【図2】ゴミをかき集める状態を示す斜視図である。

【図3】ゴミをゴミ箱に移し代える状態を示す斜視図である。

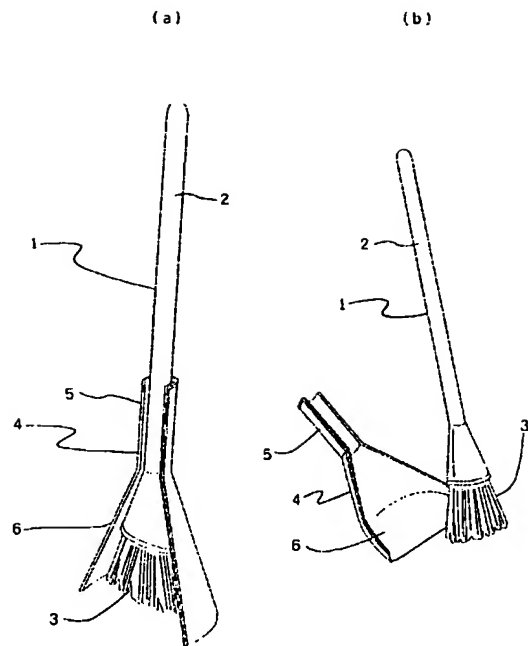
【図4】玄関脇に設置した状態を示す斜視図である。

## 【符号の説明】

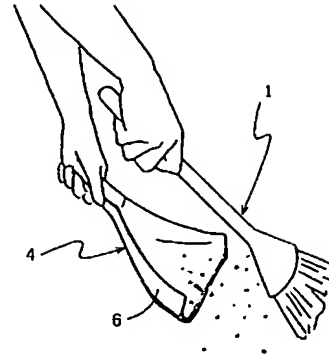
1；箒、2；柄体、3；ブラシ、4；箒用スタンド、5；把持部、6；スカート部。

40

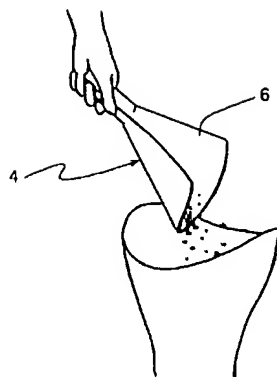
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

